

- ① 遺伝子パネル検査に力を入れ、次につながるがん治療を提案しています。  
・新年のご挨拶
- ② 新任のご挨拶  
・教えて！この言葉「尿崩症」  
・病院からのお知らせ

・ドナルド・マクドナルド・ハウス などやボランティア募集  
・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。  
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます



# TOPICS ① 遺伝子パネル検査に力を入れ、次につながるがん治療を提案しています。

名大病院はがんゲノム医療中核拠点病院として、2018年4月にゲノム医療センターを開設し、最先端の「がんゲノム医療」を提供してきました。これまでの活動や今後の展望について、センター長の安藤雄一教授と近藤千晶病院助教に伺いました。

可能性が広がるがんゲノム医療

がんゲノム医療とは、がん細胞の何百もの遺伝子を一度に調べることで「遺伝子パネル検査」を行い、遺伝子変化に基づいて患者さん一人ひとりに最適な治療薬を提案する医療です。パネル検査は2019年に保険適用されたほか、昨年からは従来の腫瘍検体だけでなく血液でも検査できるようになり、がんゲノム医療の可能性は広がっています。

ただ、遺伝子パネル検査を受けるにはさまざまな条件があり、保険診療上受けられる人が限定されている場合があるほか、検査を受けても必ずしも治療法が見つかるわけではなく、臨床試験などの治療に到達できる患者さんも限られます。そのため、当院では患者さんに丁寧の説明し、必要に応じて遺伝カウンセリングも行って、より良い選択ができるように努めています。

遺伝子パネル検査数が年々増加

開設以来、当センターは20近くのゲノム医療連携病院はもちろんだが、地域の医療機関に対してもがんゲノム医療や遺伝子パネル検査の啓発に注力し、遺伝子パネル検査用の外来を設けて紹介患者さんを受け入れてきました。その結果、現在は連携病院を含めたパネル検査数が約80件/月、当院だけでも約15〜20件/月と順調に検査数が伸びています。

パネル検査後は、検査結果に基づいて今後の治療方針を検討するため、連携病院の先生方とともに症例を検討する専門家会議（エキスパートパネル）を週1回開催し、十分な議論の上で患者さんに適した治療法を提案しています。国のガイドラインに沿った最新のエキスパートパネル支援システムを導入後は、厳重なセキュリティのもと患者さんの情報共有、治療法の探索が一層円滑に行えるようになっていきます。

患者さんを新しい治療につなげるために

治療においては、患者申出療養制



▲エキスパートパネル会議の様子

当院ホームページで遺伝子パネル検査の詳細を紹介しています。ぜひご覧ください。

○ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/outpatient/genomu/>



▲がんゲノム医療部門 近藤千晶助教

度のもと、承認済のがん種とは異なるがん種に対して既存の医薬品を投与する試験（受け皿試験）を行っています。専門家会議で十分に検討した上で治療効果の見込みの高い患者さんに提案し、これまでに20数名の方が参加されています。中には治療薬がなくお困りだった患者さんが、受け皿試験の治療薬により職場や学校に復帰できた例もあります。

一方、現在はパネル検査を実施しても治療に到達できる患者さんが少ないため、より多くの患者さんが治療を受けられるように、受け皿試験のほか企業治験に参加できる機会を増やすことが必要です。名古屋大学でも企業治験が行えるように体制を整え、治療機会の増加に尽力したいと考えています。

## 新年のご挨拶



病院長 小寺 泰弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年はオミクロン株に翻弄され、重症患者さんのケア以上に院内感染の監視や制御に苦勞がありました。自ら感染したり濃厚接触者になったり、職員の皆様も大変不自由な日々を過ごされたと思います。インフルエンザウイルスの逆襲も噂される中どのような冬を迎えることになるのか、予断を許さない状況です。加えて円安の中での電気代を含む原材料価格の高騰は、更なる災害の上乗せと言え、経営上芳しくない状況が続きます。

一方、海外では早々と「ニュー・ノーマル」の生活ぶりが報道されています。わが国では死亡者数を抑えるための適切な政策を採ったと評価される一方で、日常を取り戻す作業は遅れがちでした。稼働率を上げ、名大病院の医療をより多くの患者さんにお届けする以外に私たちにできる打開策はありません。ゆえに計画的に病床を増やし、本来の名大病院の姿に近づけてまいります。

本年も何卒よろしくお願ひいたします。



事務部長 藤江 進

新年あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、猛威を奮った新型コロナウイルス感染症も4年目となります。これまで献身的に闘い続けてきた医療現場を間近でみてきた者のひとりとして、すべての関係者に対して感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。

また、患者さんやそのご家族におかれましても、日頃より病院における感染制御の取り組みにご理解ご協力くださりましてありがとうございます。今年こそ“Withコロナ”ではなく“Beyondコロナ”コロナと共存するのではなく乗り越えたその先にあるよう願っております。

当院を取り巻く環境は光熱水料高騰や物流コスト増に伴い病院運営は厳しさを増すばかりです。経営改善により患者サービスの質を落とさずに大学病院が担うべき役割を継続できるよう、我々事務部門も微力ではありますが努力してまいります。

温かく見守っていただけましたら幸いです。



看護部長 藤井 晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、コロナのみならず、ロシア及びウクライナ情勢等、人々の生活に影響を与える大きな出来事が起こりました。これらの影響を、当院においても物価高騰等で受けておりますが、それでも当院の使命を全うすべく、様々なことを変化させながら、病院運営を行っていく必要がございます。

本年は卯年です。卯年は「飛躍する」という意味があるようです。今なお刻々と変化する社会情勢の中、「飛躍する」ために、限られた資源を活用しながら、さまざまなことに挑戦していく必要があると思っております。しかし、飛躍するためには、当たり前のことをきちんとすることが大切です。私たち看護部門において、千人を超える看護職員が、「愛(やさ)しく、温かく、安全な看護実践をめざす」という看護部の理念に基づいた看護サービスを徹底し、さらに飛躍の年とするべく一層努力してまいります。

この新しい年が、皆さまにとって良き年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 新任のご挨拶

この度、令和4年11月1日付で心臓外科学の教授を拝命しました六鹿雅登と申します。紙面をお借りして挨拶させていただきます。

心臓外科は、弁膜症、冠動脈、大動脈疾患、成人先天性心疾患、心臓移植（東海地区唯一の心臓移植施設）、植込型補助人工心臓治療も含めた重症心不全治療など多種多様な手術を行っています。これに加え、先天性心疾患の手術も再開し全ての疾患の治療が可能になります。特殊な治療ですと患者さんへの体の負担の少ない低侵襲治療である高齢者のカテーテル大動脈弁置換、クリップによる僧帽弁逆流治療、右小開胸3D内視鏡下で行う弁膜症治療なども行っています。ロボット支援下僧帽弁手術も2023年1月より開始予定であります。



他院などで対処が難しい症例も積極的に医局員とともに対応していく所存であります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

老年内科長／教授 梅垣 宏行

令和5年1月1日付けで老年内科の教授を拝命した梅垣宏行と申します。紙面をお借りしてご挨拶させていただきます。

我々、老年内科は、高齢の方の専門診療科として、認知症をはじめとして、様々な病態を総合的に診療いたします。高齢の方が虚弱になってくることをフレイルと呼びますが、そのフレイルの基盤には、筋肉が衰えるサルコペニアがあることが多いようです。我々は、こうしたフレイル・サルコペニアについても対処の方法を考えていきます。

高齢になると多くの病気を併存してもつ方が増えてきます。そうなりますと、どうしても多くの薬剤を併せて飲んでいただかなくてはならないことが増えてきます。もちろん病気をきちんと治療することはとても重要です。しかし、あまりに多くの薬剤を併用する（ポリファーマシー）と、副作用がでやすくなるなどの問題があることもあり、常に薬剤の必要性を検討しながら治療をしていく必要があると考えています。



我が国は、高齢化が進行して高齢の方が増えております。高齢の患者さんが幸せに暮らせる社会を目指して診療をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

教えて!

## この言葉

### 尿崩症

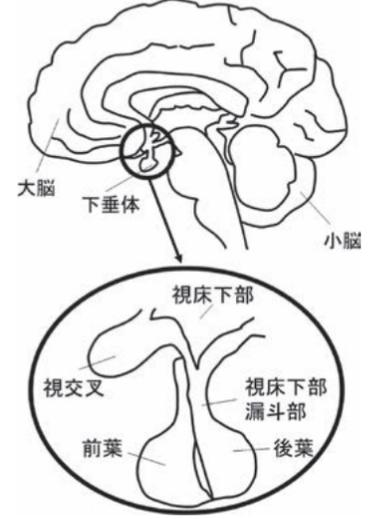
糖尿病・内分泌内科長 有馬 寛

尿の量はホルモンによって調節されています。このホルモンは抗利尿ホルモン（ADH）またはバソプレシン（AVP）と呼ばれ、頭の中にある下垂体後葉（図1）という部位から血液中に分泌されて腎臓に作用します。例えば、のどが渇くような脱水状態では血液中のADHは増加して体に水分を保つように働き、水分を多くとった時はADHが低下して余分な水分を尿として出すことで、体の水分量は調節されています。

尿崩症はADHの分泌が障害される中枢性と、腎臓でのADHの作用が障害される腎性の二つに分類されます。いずれの病態

でも、多尿（1日の尿量は3L以上）、口渇（のどの渇き）、多飲（たくさんの水分を摂取すること）が認められ、場合によっては10Lもの尿が出ることもあります。本疾患が疑われた場合、診断に必要な血液検査と尿検査に加え、原因を調べる必要があります。中枢性尿崩症は特異性（原因が不明なもの）、続発性（脳腫瘍、脳外科手術後、炎症などによるもの）、家族性（遺伝子の変異によるもの）に分類され、治療はデスマプレシン（経口薬または点鼻スプレー）という薬で行います。腎性尿崩症は薬剤で生じることもあります。

▼(図1)



## 病院からのお知らせ

### 提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しておりますが、2022年度上半期では、特に以下の改善を実施しました。

#### 〈院内における主な設備面の改善〉

- 1) 病棟の廊下等の照明のLED化
- 2) 入院患者さん用の無料Wi-Fiサービスの開始
- 3) 院内の案内掲示の更新

#### 〈院内における主な運用面の改善〉

- 1) 院内放送の頻度、内容の一部更新



▲病棟の廊下等の照明のLED化

## 病院からのお知らせ

### 愛知県からの感謝状贈呈について



令和4年9月22日、愛知県庁において、新型コロナワクチン大規模集団接種関係者への感謝状の贈呈式が開催され、本院を含む21の団体に感謝状が授与されました。

贈呈式では大村知事から、新型コロナワクチン大規模集団接種会場の運営に携わられたすべての方に心から感謝を申し上げたいと謝辞が述べられました。

本院は、愛知県大規模集団接種 名古屋空港ターミナルビル会場に、令和3年6月から現在まで約400名の医師を問診医として派遣しており、オミクロン株対応ワクチンの大規模集団接種についても、引き続き医師派遣を行っております。

## ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや ボランティア募集

ドナルド・マクドナルド・ハウス なごやは名大病院の敷地内にあり、病気の子どもたちとその家族が滞在することが出来る施設です。

ハウスの運営はボランティアに支えられています。1ヶ月に2回ほど1回3時間の活動でハウスキーピング・ベッドメイク・事務作業等が主な活動です。高校生から70歳代まで幅広い年齢の方が活動されています。

随時ボランティア募集中ですので、興味のある方は右記まで電話またはメールにてお問い合わせください。

ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや  
(ボランティア連絡先)  
TEL : 052-744-0203  
MAIL : nagoya.house@mail.dmhcj.or.jp

